

専門学校 富士リハビリテーション大学校

令和5年度 第1回学校関係者評価委員会 会議録

日 時	令和5年5月17日（水）19:00~20:05		
開催場所	専門学校 富士リハビリテーション大学校 101 教室		
出席者	(1) 委員（出席2名、欠席1名）		
	氏名	所属等	選出区分
	廣瀬 真人	富士整形外科病院 理学療法士/診療支援部門統括副部長	業界関係者
	澤田 和也	湖山リハビリテーション病院 作業療法士/事務長代行	業界関係者
	※欠席：森 雄司（卒業生代表、静岡医用センター）		
	(2) 学校（出席5名）		
	氏名	所属等	
内田 成男	専門学校 富士リハビリテーション大学校 学校長	—	
堀池 英彦	専門学校 富士リハビリテーション大学校 事務長	—	
植田 英則	専門学校 富士リハビリテーション大学校 理学療法学科 学科長	—	
岡本 博行	専門学校 富士リハビリテーション大学校 作業療法学科 学科長	—	
宮下 正好	専門学校 富士リハビリテーション大学校 教務部長	—	

1 学校長挨拶

2 参加者挨拶（確認）

3 2022年度重点目標の取り組み状況について

- (1) 非常勤講師との連携体制の強化
 - ・ 非常勤講師用の「学内報」を作成し、3月・4月の2回、お渡し（お届け）をした。
- (2) 同窓会との連携強化
 - ・ 同窓会に連携強化を提案した。
 - ・ 同窓会の役員が退任、交替するタイミングであり、同窓会自体が十分に活動できない状況であったため、連携しての活動ができなかった。

4 2022年度自己点検・自己評価結果報告

- (1) 教育理念・教育目標（内田学校長）
 - ・ 各項目、適切と判断した。
- (2) 学校運営（内田学校長）
 - ・ 2-1-2 運営方針を教職員に伝えることは行っているが（教職員会議）、始めたばかりでまだ不十分

- ・ 2-3-3 組織機能図はあるが、十分なものとはいえない。
- ・ 2-4-21,2-4-25 職員の研修等は事務職員の接遇セミナー、教員の学内の研修・学外の学会参加など行った。

(3) 教育活動（植田学科長）

- ・ 2-3-2 カリキュラムツリー作成（学生ハンドブックに掲載）したので適切とした。
- ・ 3-2-3 コマシラバスは作成しておらず、継続した課題。
- ・ 3-2-21 授業評価実施しているが、教員間での評価は行われていない。
- ・ 3-2-22 授業観察は、姉妹校の浜松医療学院と合同で実施している。
- ・ 3-2-83 「臨床実習支援システム」導入で、実習地との連携強化が進んだので 4+とした。

(4) 学修成果・教育成果（植田学科長）

- ・ 4-4-1 同窓会の活動が止まっていて、卒業生の動向が十分に把握できていないので「2」とした。

(5) 学生支援（岡本学科長）

- ・ 5-4-21 健康診断定期的に行われている。こころの相談室も設置されているので 4+とした。
- ・ 5-4-42 自宅通学の学生がほとんどなので、住環境に対する支援はあまりなされていない。
- ・ 5-5-1 退学者の低減に努めているが、結果として退学者が生じている。もっと工夫が必要。
- ・ 5-7-21 卒業生への支援は十分といえない。同窓会への支援、連携が必要。

(6) 教育環境（岡本学科長）

- ・ 6-2-2 情報の取り扱いに関する規程は整備されていない。
- ・ 6-3-41 安全管理の担当者割り当ては行われている。安全管理マニュアルは今後の課題。

(7) 学生の受け入れ・募集（堀池事務長）

- ・ 全体を通して適切
- ・ OT 学科の定員は充足されていないので引き続き課題

(8) 教育の内部質保証システム（宮下教務部長）

- ・ 8-2-2 個人情報保護の規程等は文書化されていない。
- ・ 8-4-4 改善計画に取り組んでいるが、十分には出来ていない。

(9) 財務（堀池事務長）

- ・ 9-1-1,2 財務基盤はほぼ適切

(10) 社会貢献・地域貢献

- ・ 10-1-1,2 富士市からの委託事業を積極的に取り組んでいる

5 意見交換・質疑応答

(1) 「臨床実習支援システム」について

- ・ 臨床実習支援システムとはどういうものか
- ・ 学生、指導者、学校をオンラインでつなぐシステム。学生の日誌、指導者の行う学生評価が随時、学校教員が閲覧できる。
- ・ 指導者の負担はどうか。
- ・ アンケートでは減少と感じている指導者が多かった。システムの使用に慣れればさらに減少するのが予測される。

- ・ 学校教員の負担はどうか。
 - ・ 全学生の状況を毎日確認するわけではない。頻繁に確認が必要な学生は限られるので、負担増とまではいかない。
 - ・ 実習地訪問の際、以前は訪問して初めて把握するようなことを事前に確認できる。訪問の時間の短縮につながる。
 - ・ システムの使用料は、4年間使用として1人15,000円。
 - ・ 本校は、他の養成校に先駆けて導入したが、今後導入する養成校が増えれば、指導や帳票などの統一化につながることを期待できる。
- (2) 学生の相談窓口（こころの相談室）について
- ・ 相談窓口というような体制は、一般的にあるものか？
 - ・ 大学や高等学校ではかなり普及している。本校のような規模の専門学校では設置しきれないところが多いかもしれない。本校では、月に2回、高校の巡回もしている公認心理師に来ていただいている。
 - ・ 職場でも、このような相談窓口が必要、良い取り組みをしているので、学校のパンフレットその他でアピールしても良いのでは。
- (3) 個人情報保護規程について
- ・ 個人情報保護についての規程は、学校、学生を守る意味でも整備しておくといよい。
 - ・ 臨床実習指導者に関する事で、免許のコピーなど個人情報にかかわる書類を扱っている。そういったところの取り扱いも今後考える必要がある。

6 2023年度重点目標について

(1) 非常勤講師との連携強化

2022年度に取り組みを開始したので、継続課題として2023年度も進めていく

(2) 同窓会との連携強化

2022年度は十分な成果をあげることができなかった。継続して課題とする。

同窓会活動が止まっている状況にあるので、学校として支援を提案し、活動再開に協力していく。

(3) 富士市との包括連携協定締結に向けた取り組み

富士市に専門学校と連携をしていきたいという意向があり、企画課と本校で何度か懇談している。

既に、富士市の事業を多数受けているため、将来的には富士市と連携協定を締結し、富士市への貢献活動を強化したい。それに向けての活動を開始していくことを重点目標の1つとした。

7 次回日程の確認

令和5年度第2回学校関係者評価委員会 令和5年11月8日(水)19:00～